

総合工学委員会原子力安全に関する分科会（第26期・第2回）

議事要旨

1. 日 時 令和6年6月17日（月）15：00～17：00

2. 会 場 遠隔会議（Zoom）

3. 出席者（敬称略）

越塚委員、佐竹委員、高木委員、森口委員、赤羽委員、浅間委員、一ノ瀬委員、岩城委員、大倉委員、小野委員、関村委員、筑本委員、中西委員、野口委員、松尾委員

4. 議 事

（1）前回議事要旨及び委員名簿の確認

（2）原発事故の環境影響に関する検討小委員会報告（森口委員）

（3）話題提供

・複雑システムのリスクとステークホルダコミュニケーション（小野幹事）

（4）第26期における活動計画（全員）

（5）原子力総合シンポジウムについて（越塚副委員長）

（6）その他

（1）前回議事要旨及び委員名簿の確認

資料1－2をもとに関村委員長より、委員名簿の確認（年度替わりによる所属変更の有無を確認）、および前回欠席委員の紹介があった。

（2）原発事故の環境影響に関する検討小委員会報告（森口委員）

森口委員より、資料2をもとに小委員会報告があった。

・第25期の主たる活動として、1）第24期報告の英文版の作成と公表、2）環境放出・拡散解析WGの成果の今後の活用の方向性検討、3）アーカイブズWGの活動が報告された。

・委員より、影響を受けた地域の住民との交流を促進すべきではないか、個々の研究者の活動を束ねるハブとして学術会議を活かしてはどうか、既刊の「学術の動向」には複数年にわたる活動がまとまっているためアーカイブとして活用可能ではないか、という意見があった。今後、医療従事者との連携、電力会社からの話題提供について示唆があった。

・次回小委員会は 7/17 13：00～。

（3）話題提供

小野幹事より、資料3をもとに「複雑システムのリスクとステークホルダコミュニケーション」について話題提供があった。

- ・委員より、以下の質問・意見があった。

原発のリスクを他のリスクと比較して説明する際に注意すべきことは何か／原子力安全はエネルギーのマネジメントとも絡む問題であるものの、マネジメントの議論が不足している／原発のリスクは立地選定、エネルギー政策、一個人の不安感、等、異なるフェイズのものがあるため、構造の整理が必要である／原子力のリスクのエンドポイントとして環境影響や生活も考慮されるようになったものの、具体的な議論は不足している。

(4) 第26期における活動計画

関村委員長より、メールにて意見を募る旨の案内があった。

(5) 原子力総合シンポジウムについて

越塚副委員長より、資料5をもとに公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2024」について説明があった。

- ・開催時期について、2025年1月後半の月曜日(1/20か1/27)で調整することとなった。
- ・取りまとめを越塚副委員長を中心に進めるものとし、講演者の提案等をメールで委員より募ることとなった。

(6) その他

- ・第3回分科会を、年内を目途に開催することとした。

5. 配布資料

- 資料1-1 原子力安全に関する分科会(第26期・第1回)議事要旨
- 資料1-2 原子力安全に関する分科会(第26期)委員名簿
- 資料2 原発事故の環境影響に関する検討小委員会報告
- 資料3 「複雑システムのリスクとステークホルダコミュニケーション」
(小野幹事資料)
- 資料4 原子力安全に関する分科会設置提案書
- 資料5 原子力総合シンポジウム2024 開催案

以上